

科目名称	理学療法評価学実習
授業コード	AD224
英語名称	Physical Therapy Evaluation Practice
学期	2024年度前期
単位	1.0
担当教員	渡邊 修司, 五味 雅大, 佐野 徳雄, 平賀 篤, 新永 拓也, 相原 正博, 青柳 達也
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	理学療法の基本となる理学療法評価について学ぶ。理学療法評価は、検査や測定から得られた対象者に関する種々のデータを分析、考察して、対象者の障害像を総合的に把握することを目的として実施されることから、理学療法評価の習得は、安全かつ適切な理学療法的介入を実践する上で必要不可欠である。従って、本講義では基本的な検査や測定方法について体験し、安全に配慮したうえで施行できる技術の修得を目的に講義を進めていく。なお、理学療法士としての実務経験のある教員がそれぞれの専門分野を分担して講義する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	病院、介護老人保健施設等、関連医療機関における理学療法士としての実務経験のある教員が、それぞれの経験や専門分野に基づいた理学療法評価技術と、臨床推論について講義する。
到達目標	ディプロマポリシーに掲げる「基本的な理学療法を実践できる知識と技術を身につけている。」や「理学療法士国家資格に準拠した基礎医学、臨床医学および理学療法の専門的知識を修得している。」を達成するために以下を到達目標とする。 1.理学療法における評価の必要性、評価の手順を説明できる。 2.運動学、解剖学、生理学に基づき形態測定、関節可動域測定、徒手筋力検査、反射検査、感覚検査、片麻痺機能検査、協調性検査が実施できる。
計画・内容	1) オリエンテーション、総論、形態測定（四肢長） 担当教員：渡邊・相原・佐野・五味（理学療法士） 予習：教科書・参考書を用いて該当箇所について確認しておくこと(1時間) 復習：学習した実技を練習し、健常者に対して実施できるようにすること(2時間) 2) 形態測定（四肢周径） 担当教員：渡邊・相原・佐野・五味（理学療法士） 予習：教科書・参考書を用いて該当箇所について確認しておくこと(1時間) 復習：学習した実技を練習し、健常者に対して実施できるようにすること(2時間) 3) 関節可動域測定（総論、上肢1：肩関節、肘関節、前腕） 担当教員：渡邊・相原・佐野・五味（理学療法士） 予習：教科書・参考書を用いて該当箇所について確認しておくこと(1時間) 復習：学習した実技を練習し、健常者に対して実施できるようにすること(2時間) 4) 関節可動域測定（上肢2：手関節 下肢1：股関節） 担当教員：渡邊・相原・佐野・五味（理学療法士） 予習：教科書・参考書を用いて該当箇所について確認しておくこと(1時間) 復習：学習した実技を練習し、健常者に対して実施できるようにすること(2時間) 5) 関節可動域測定（下肢2：膝関節、足関節、足部） 担当教員：渡邊・相原・佐野・五味（理学療法士） 予習：教科書・参考書を用いて該当箇所について確認しておくこと(1時間) 復習：学習した実技を練習し、健常者に対して実施できるようにすること(2時間) 6) 関節可動域測定（頸部・体幹） 担当教員：渡邊・相原・佐野・五味（理学療法士） 予習：教科書・参考書を用いて該当箇所について確認しておくこと(1時間) 復習：学習した実技を練習し、健常者に対して実施できるようにすること(2時間)

計画・内容

7) 関節可動域測定（肩甲帯）

担当教員：渡邊・相原・佐野・五味（理学療法士）

予習：教科書・参考書を用いて該当箇所について確認しておくこと(1時間)

復習：学習した実技を練習し、健常者に対して実施できるようにすること(2時間)

8) 筋力測定（総論、段階付け、下肢1：股関節、膝関節）

担当教員：渡邊・相原・佐野・五味（理学療法士）

予習：教科書・参考書を用いて該当箇所について確認しておくこと(1時間)

復習：学習した実技を練習し、健常者に対して実施できるようにすること(2時間)

9) 筋力測定（下肢2：足関節 上肢1：肩関節）

担当教員：渡邊・相原・佐野・五味（理学療法士）

予習：教科書・参考書を用いて該当箇所について確認しておくこと(1時間)

復習：学習した実技を練習し、健常者に対して実施できるようにすること(2時間)

10)筋力測定（上肢2：肘関節、手関節）

担当教員：渡邊・相原・佐野・五味（理学療法士）

予習：教科書・参考書を用いて該当箇所について確認しておくこと(1時間)

復習：学習した実技を練習し、健常者に対して実施できるようにすること(2時間)

11)筋力測定（頸部・体幹）

担当教員：渡邊・相原・佐野・五味（理学療法士）

予習：教科書・参考書を用いて該当箇所について確認しておくこと(1時間)

復習：学習した実技を練習し、健常者に対して実施できるようにすること(2時間)

12)筋力測定（肩甲帯）

担当教員：渡邊・相原・佐野・五味（理学療法士）

予習：教科書・参考書を用いて該当箇所の課題を実施しておくこと(1時間)

復習：学習した実技を練習し、健常者に対して実施できるようにすること(2時間)

13)形態測定・関節可動域測定・筋力測定のまとめ（実技試験）

担当教員：渡邊・相原・佐野・五味（理学療法士）

予習：教科書・参考書を用いて該当箇所について確認しておくこと(1時間)

復習：学習した実技を練習し、健常者に対して実施できるようにすること(2時間)

14) 形態測定・関節可動域測定・筋力測定のまとめ（実技試験）

担当教員：渡邊・相原・佐野・五味（理学療法士）

予習：教科書・参考書を用いて該当箇所について確認しておくこと(1時間)

復習：学習した実技を練習し、健常者に対して実施できるようにすること(2時間)

15) 感覚検査・反射検査・片麻痺機能及び筋緊張検査・協調性検査及び関節可動域測定及び筋力測定1

担当教員：渡邊・相原・佐野・五味（理学療法士）

予習：教科書・参考書を用いて該当箇所について確認しておくこと(1時間)

復習：学習した実技を練習し、健常者に対して実施できるようにすること(2時間)

16) 感覚検査・反射検査・片麻痺機能及び筋緊張検査・協調性検査及び関節可動域測定及び筋力測定1

担当教員：渡邊・相原・佐野・五味（理学療法士）

予習：教科書・参考書を用いて該当箇所について確認しておくこと(1時間)

復習：学習した実技を練習し、健常者に対して実施できるようにすること(2時間)

17) 感覚検査・反射検査・片麻痺機能及び筋緊張検査・協調性検査及び関節可動域測定及び筋力測定2

担当教員：渡邊・相原・佐野・五味（理学療法士）

予習：教科書・参考書を用いて該当箇所について確認しておくこと(1時間)

復習：学習した実技を練習し、健常者に対して実施できるようにすること(2時間)

18) 感覚検査・反射検査・片麻痺機能及び筋緊張検査・協調性検査及び関節可動域測定及び筋力測定2

担当教員：渡邊・相原・佐野・五味（理学療法士）

予習：教科書・参考書を用いて該当箇所について確認しておくこと(1時間)

復習：学習した実技を練習し、健常者に対して実施できるようにすること(2時間)

19)感覚検査・反射検査・片麻痺機能及び筋緊張検査・協調性検査及び関節可動域測定及び筋力測定3

担当教員：渡邊・相原・佐野・五味（理学療法士）

予習：教科書・参考書を用いて該当箇所について確認しておくこと(1時間)

復習：学習した実技を練習し、健常者に対して実施できるようにすること(2時間)

20) 感覚検査・反射検査・片麻痺機能及び筋緊張検査・協調性検査及び関節可動域測定及び筋力測定3

担当教員：渡邊・相原・佐野・五味（理学療法士）

予習：教科書・参考書を用いて該当箇所について確認しておくこと(1時間)

復習：学習した実技を練習し、健常者に対して実施できるようにすること(2時間)

21) 感覚検査・反射検査・片麻痺機能及び筋緊張検査・協調性検査及び関節可動域測定及び筋力測定4

計画・内容	<p>担当教員：渡邊・相原・佐野・五味（理学療法士） 予習：教科書・参考書を用いて該当箇所について確認しておくこと(1時間) 復習：学習した実技を練習し、健常者に対して実施できるようにすること(2時間) 22) 感覚検査・反射検査・片麻痺機能及び筋緊張検査・協調性検査及び関節可動域測定及び筋力測定4 担当教員：渡邊・相原・佐野・五味（理学療法士） 予習：教科書・参考書を用いて該当箇所について確認しておくこと(1時間) 復習：学習した実技を練習し、健常者に対して実施できるようにすること(2時間) 23) 関節可動域測定・筋力測定・感覚検査・反射検査のまとめ（実技試験） 担当教員：渡邊・相原・佐野・五味（理学療法士） 予習：教科書・参考書を用いて該当箇所について確認しておくこと(1時間) 復習：学習した実技を練習し、健常者に対して実施できるようにすること(2時間)</p>
授業の進め方	<p>授業第1 - 12回：4グループに分かれ、各教員のもとで実技形式の授業を受ける。 授業第13 - 14回：形態測定・関節可動域測定・筋力測定について確認実技試験（中間実技試験）を実施する。 授業第15 - 22回：4グループに分かれ、各教員のもとで実技形式の授業を受ける。 授業第23回目：関節可動域測定・筋力測定・感覚検査・反射検査について確認実技試験（学期末実技試験）を実施する。 授業内の実技練習では基本的に二人一組となり、検査者と被検者の役割を分担・交代しながら評価方法を修得する。</p>
能動的な学びの実施	<p>授業中は必要に応じて実習(ロールプレイングなど)を行う。また、適宜小テストなども実施するため、積極的な授業参加が求められる。</p>
授業時間外の学修	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に予め教科書の該当箇所を読み、不明な点をまとめておくこと（各回1時間） ・学習した項目の実技練習を行うこと（各回2時間）
教科書・参考書	<p>津山直一，中村耕三 訳：「新・徒手筋力検査法」 協同医書出版社 齋藤慶一郎著「ROM計測法」 メジカルビュー社 鈴木 則宏 神経診察クローズアップ 正しい病巣診断のコツ 第3版 メジカルビュー社</p>
成績評価方法と基準	<p>中間実技試験（50%） 学期末実技試験（50%） にて総合的に評価する</p>
課題等に対するフィードバック	<p>実技練習では、各練習ペアに教員が適宜フィードバックを行う。レポート課題などに対してはコメントを記入または口頭にてフィードバックを行い、返却する。</p>
オフィスアワー	<p>Campusquareを参照。</p>
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・実技授業が主であり、必要な際には直ちにTシャツ，短パンになれるように準備しておくこと。 ・他者の身体に触れるため髪形や爪などにも留意すること。 ・実技授業においては必ず各自で予習・復習を行うこと。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>授業の進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・zoomによるオンライン授業と課題学修に加え、授業回数を制限した上で可能な限り対面授業を実施する。 ・完全非対面授業の場合はzoomによるオンライン授業と課題学修を組み合わせる。 <p>成績評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可能な限り対面による実技試験を実施する（ 中間実技試験（50%） 学期末実技試験（50%）） ・完全非対面授業の場合はレポート課題（50%）及び授業中課題（50%）にて総合的に評価する。